

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

196号 2020年2月16日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂
1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

講壇什器整備特集号

巻頭言

「キリストにしっかり結ばれ生きる」

——テサロニケの信徒への手紙—第3章7～8節——

牧師 渡邊 義彦



それで兄弟たち、わたしたちは、あらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。あなたがたが主にしっかり結ばれているなら、今、わたしたちは生きていけると言えるからです。（新共同訳聖書）

伝道者、牧会者としてのパウロたちの喜ぶ姿が目に浮かぶような箇所です。テモテが喜びの知らせを、テサロニケ教会から、パウロ、シラスたちのもとに持ち帰ってきました。ていねいに土台を据えた教会、まだ生まれたばかりの年若いうちに、伝道者たちが離れねばならなかった教会、福音ならざるものが暴力的に持込まれて信仰を揺るがしかねなかった教会、この教会がなお健全な信仰に立って、福音に堅く立ち、教会の建てられた地域への伝道のため、地域の救いのために一層祈り続けている。テモテが持ち帰ってきた報告に、パウロたちは心底喜んだのです。

教会が困難に陥るなら、教会が苦しむなら、教会が立ち行かなくなるなら、教会が倒れてしまうなら大きな悲しみが起こります。キリストの御身体が裂かれるごとくの痛みがあります。しかし、教会が建つなら、教会が力強く立ち続けるなら、教会が福音の喜びに満たされて伝道し、建てられた地域、町、国、世界の救いのため祈り続けられるなら大きな喜びが続くのです。

パウロたちが町をあとにしたテサロニケでは、生まれたばかりのキリスト教会への迫害、福音を宣べ伝えることへの強烈な妨害がなお止まず続いています。迫害の最中にパウロたちは、テサロニケの教会をあとにしました。テサロニケ教会に残って教会建設と伝道に力尽くし、伝道者として励むべき務めがなお残されてあると容易に考え得るのに、教会をあとにして先の伝道地へ、次なる教会建設地へと進まねばならなかったのです。ベレア、アテネと伝道を進めて、迫害がなお止まずに苦境にあるテサロニケ教会のことをここで伝えられたのでしょうか。居ても立ってもおられない思いで、テモテにテサロニケ教会にもう一度戻ってもらい、教会の様子を知るため、そして、教会を守り建て直すためにテモテをアテネから派遣したのです。

キリスト教会は、福音を宣べ伝えてゆくために福音ならざるものとの闘いに取り組み、人を苦しめる力を福音をもって駆逐するため、キリストが救わんとされる人、町、国、世界の救いのため忍耐し耐える教会は、キリスト者たちは苦しまなくてはなりません。キリスト者たちが、教会が福音伝道ゆえに耐えねばならない苦しみについて、使徒は教会を離れる前に兄弟姉妹たちに語ってはおきました。けれども果たして、福音伝道ゆえのこの苦しみを実際に身に帯びて経験し、教会は信仰において萎えてしまってい

ないか、生まれて間もない信仰は福音に強烈に反対する力に潰され、抜き去られ踏みにじられてしまっていないか。コリントの町に到着したパウロ、シラスたちの懸命な祈りでした。教会が福音ならざるものによって潰されず建ち続けてゆくことができるように祈り続けたのです。

テモテが帰還し戻ってきて、喜びの知らせ、喜びの報告を持ち帰ってきました。教会は建っています。福音ならざるものの力に抗して建っています。信仰を堅く持ち、福音の伝道に、教会の建設になお励んでいます。兄弟姉妹たちは元気です。彼ら、彼女らは、教会のため、互いのため、町のため、そして、さらに福音を先へと運びもっと多くの人たちに、もっと広く遠くにまで福音を届けるために、テサロニケをあとにしたわたしたちのためにも祈ってくれています。テモテの報告はパウロたちに大きな喜びをもたらしました。

教会が建ってゆくので、信徒も、伝道者たちも、すべてのキリスト者たちは立ってゆくことができます。教会が生きるので、信徒たちも、伝道者も、すべてのキリスト者たちが生きることができます。教会が生きて働くので、キリスト者たちは献身して、キリストに仕え、奉仕することができるのです。

もし、教会が立ち続けているというこの報告が、伝道者たち、キリスト者たちの、人間の自己実現、自己目標達成の事業報告であれば、この報告を受けたパウロたちも、喜び勇んで朗報を持ち帰ったテモテの心をも感動させることは決してなかったでしょう。主の御名を使った、自己実現の報告ということがあります。御名を多用し、乱用し、自己実現、自己達成を自慢することが、世界にも、キリスト者であっても、信徒でも、伝道者であってさえもあるのです。パウロたちの喜びは、自分たちが土台を据え、建ててきた教会が今も建ち続けている、自分たちの仕事が無駄にならなかったことが喜びの源ではありません。自己実現、自己目的、目標の達成が喜びではないのです。

パウロたち、伝道者たちの喜びも、生まれたばかりのテサロニケ教会も、洗礼間もないテサ

ロニケのキリスト者たちも、彼ら、彼女たちが喜んでいるのは、主なる神が生きて働いてくださることを知ったからです。わたしたちの目に成功と思えることも、失敗と思えることにおいてさえも、神が生きて働いてくださるのを知ることが喜びなのです。

この世的な成功や名誉、名声を手に入れて、利益を手にすることだけに主の働きがあるのではありません。主の御手からわたしたちの人生のすべてを受け取ります。わたしたちが男であることも女であることも、わたしたちの若さも老いてゆくことも、わたしたちが渴きを空腹を覚え、食べ物に満たされ満腹することも、眠ることも目覚めることも、働くことも休むことも、楽しむことも苦しむことも、病も健康も、都合のいいときだけでなく都合の悪いときさえも、神のものです。わたしたちの一生の一部分だけが神のものではなくて、神が、わたしたちの人生のすべてなのです。わたしたちのパートタイムが神のものではなくて、神が、わたしたちのフルタイムに満ちてくださっています。

テサロニケ教会の誕生の喜びも迫害の中での苦難も、苦難の中で教会が立ち続けていることも、神が為さるること、すべてを神が為さることを、パウロも、シラス、テモテも、テサロニケ教会の兄弟姉妹たちも知ることができて喜ぶのです。神が喜びの源です。キリストにしっかりと結ばれていることこそが、わたしたちの喜びの源です。

集会出席統計(月平均人数)

	2019年	
	11月	12月
主日礼拝	78.0	88.4
聖書と祈り会	11.3	11.0
教会学校*	97.8	130.0

* 保護者、教師を含む

(第1主日開催)	11月3日	12月1日
聖餐夕礼拝	9	13

「変わるもの、変わらぬもの — 講壇什器整備に寄せて」

牧師 渡邊 義彦

柿ノ木坂教会に主任として着任しましたときに、南支区報から自己紹介文を求められ、「一枚の設計図」と題して文章を記しました。これに書きました一枚の設計図の話は、神学生であった当時、東京神学大学学長であった松永希久夫先生から聞いたものです。先生がカナダ留学時代に出席した教会で会堂の設計図を見せてもらい、牧師は会堂の土台は何年に据えられ、設計図のこの部分は何年に、ここは何年に、今はここを建設していると説明してくれた、と言うのです。一枚の設計図をもとに今も教会建設を続けているのだ、という話です。

今回のパイプオルガン新設と講壇什器更新の教会の大切な一連の事業を通して、改めて、この一枚の設計図の話を思い返しました。本号後掲の井澤浩一長老の文章（編集者注：7ページ）に、2004年の会堂改修時にありました講壇什器の更新計画に触れられてありますが、今回、講壇什器更新をいよいよ実施するとなったときにマスタープランとしてわたしの頭にあったのは、残されていた改修時の設計図でした。設計図の意味を汲み取って、更に、礼拝において語られる御言葉、聖書、説教、そして、執行される洗礼と聖餐の聖礼典をはっきりと表現できる講壇を、と考えました。

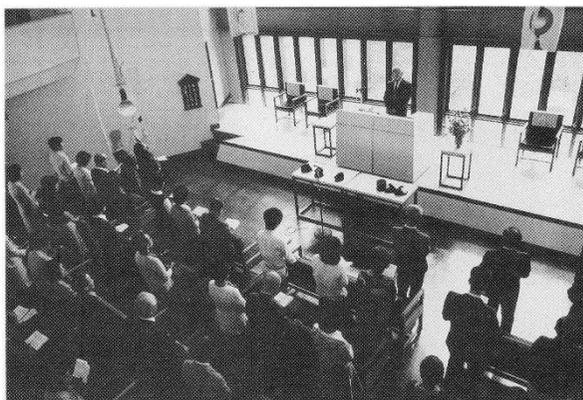
「日本キリスト教団柿ノ木坂教会 50 年記念誌（1936 年-1986 年）」の扉には数葉の写真が掲載



されています。この中に、左の 1949 年秋頃の聖日礼拝の写真、右上の 1969 年の、同じく秋頃

の聖日礼拝の写真が並べられています。そこには、旧会堂で使われてきた講壇（左下の古い写真）、そして新会堂献堂以来 2019 年 12 月まで使われてきた講壇、聖餐桌、その他の講壇什器（写真下）が写されています。

旧会堂の説教卓は、現在、教会学校 JC 科が礼拝で用いています。時代を思わせる説教卓です。



1968 年に木造の会堂から、現在の基礎となる会堂になった翌年 1969 年の写真



2004 年実施の耐震改修時に撮影された写真
2019 年 12 月まで使用された什器

1968 年の新会堂竣工と共に献げられた説教卓は、約半世紀を経て、表面の板が熱や乾燥で反り返って接着面が剥がれてしまったところなどを大切に補修しながら使ってきましたが、そろそろ限界かとも思われました。

デザインや配置は、時代と共に、会堂の変遷と共に変化しています。けれども、これらの写真によって切り取られているのは、説教壇に御言葉を取り次ぐ者が立ち、会衆が御言葉に聞いている姿です。説教と聖礼典によって建てられてきた教会の姿が写真として切り取られています。

プロテスタント教会が誕生したとき、それまでの歴史の中で教会が負ってきてしまった多くの不必要なものを削ぎ落として、本来、教会は何によって建つのかを、宗教改革者たちは突き詰めていって、彼らは、御言葉の説教と、洗礼と聖餐の聖礼典の正しい執行によってこそ教会は建つことを改めて見極めたのです。1530年に著されたプロテスタント教会最初の信仰告白である「アウグスブルク信仰告白」が「教会は、聖徒の会衆であって、そこで、福音が純粋に教えられ聖礼典が福音に従って正しく執行せられるのである」(第七条)と告白しているとおります。

時代による変遷があるとしても、わたしたちの目に見えるところが変わっていくことがあるとしても、一貫して変わらない、変えられないことがあることを覚えなくてはならないでしょう。一枚の設計図も、時代ごとの礼拝堂の写真も歴史の流れによって変わり得るものと、そして何よりも、歴史において一貫して変わらないことを表現しています。

先の一枚の設計図の話も、単に教会建物の建設の話を、学長はなさりたかったのではないと思返します。どの教会であろうとも、教会に一貫した設計図は何かということを考えなさいということでしょう。会堂が変わろうとも、会員が異動してゆこうとも、牧師の離着任であろうとも、聖霊降臨以来続いてきたキリスト教会の教会建設を成り立たせてきた、どの時代にも、どの地方であろうとも、一貫し一致していることを見極めなさい、ということであると思うのです。

今回の講壇什器整備では、教会が、御言葉と、洗礼・聖餐の聖礼典によってこそ建ってゆくことをはっきりと表わすことに心がけました。これからの10年、教会は、この地での伝道開始

100年を目前にします。そして、柿の木坂の地での伝道100年を経て、その後の伝道をも、わたしたちは展望し計画し進めてゆきます。福音の説教と、秩序に適った聖礼典の執行による教会の建設のために祈りを合わせ、仕えてゆく志を、このときに新たにしたいと願います。

出エジプト記には、荒れ野での礼拝所を建設するために幕屋建設の詳細な指示と、神からの指示に基づいて、まるでそれは言葉によって表現された設計図のようにも思えますが、一言も違わず民が神の言葉を実行し、幕屋を建設、設置して、聖所において用いる什器を製作する様を読むことができます。礼拝を献げる場所の整備と保全に神の民が心尽くしてきたことをこれらの言葉は表しています。「主ご自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の苦労はむなしい」とソロモンが建てた荘厳な神殿を思い起こしつつ詩人が謳いました。民の礼拝を守る労苦は、神が報いてくださいます。

パイプオルガン新設、講壇什器整備が、ある特定の会員だけの献げ物によって遂げられたことではなくて、教会員各々の祈りと献げ物によって整えることができたことは、このような献身へと、主がわたしたちを促してくださったことを心から感謝するものです。主に整備された講壇什器を献げ、お返しして、ただおひとりの主なる神に心を尽くして礼拝をささげてゆきましょう。



1968年4月14日、未完成の新会堂での復活祭礼拝。
古い説教卓を使用。



1968年6月8日、新会堂の献堂礼拝。説教はお招きした浅野順一先生。献品された新説教卓を初めて使用。

*1968年新会堂の正面が全面ガラスになった理由：

3ページ左の園舎兼用の木造会堂の正面窓から園庭の山桜の木が見え、美しく咲く花が眺められた。新会堂もそれが見えるようにしてほしいとの教会員からの強い要望だった。残念ながら2004年の改築時、幼稚園園舎を広くするために、桜の木は惜しまれながら切られた。その木を使ったコースターが記念に作られ、記念の切り株が1階階段下にあった。

「新しくなった講壇什器」

かつ しんげい
葛 沁芸

昨年の年始頃だったでしょうか、渡邊牧師よりお声掛けいただき、講壇什器の整備のお手伝いをさせていただけることとなりました。

パイプオルガンを迎える年のクリスマスに合わせて講壇什器を整備したいということ、また教会の大切な3つのもの、説教壇、聖餐卓、洗礼盤を講壇の上に並べたい、これらの3つの重さを表現するデザインであってほしい、という要望を当初よりお聞きしていました。

春から夏にかけて、渡邊牧師と何度もお打合せするうちに、私が知らなかった様々な経緯や、普段会衆席に座っているとわからない、説教者

や司式者が礼拝を執り行う際の様々なことを知ることができました。説教壇、聖餐卓、洗礼盤を横並びに講壇の上に並べるという配置は勝田牧師の時代に既に考えていた配置であったこと。十字架のプロポーシヨンの問題。聖餐卓の足元が引っ掛かりやすいこと。説教壇の書見台部分の勾配が急すぎること、等々。会衆側から見てシンプルで美しく、調和の取れたものとすると同時に、柿ノ木坂教会で行われる礼拝にフィットするものとしたい、と考えながら、渡邊牧師とお話しする中で、3DのCGや図面などで検討しながら、徐々にデザインが固まっていったように思います。



教会ではあまり普段やっていることをお話しする機会はありませんが、私は住宅を中心とした建築の設計や内装設計などの仕事をしつつ、たまに建築の専門教育に携わりながら、イエズス会士の設計で18世紀に北京に建設された建築を研究しています。私の専門ではありませんが、教会建築、特に宗教改革以降の

教会建築にはかねてより興味がありました。宗教改革500周年だった一昨年、バッハの研究者である故・礪山雅先生からバッハの時代に信徒が共に歌える礼拝が重視されたこと、またスイスの教会堂を紹介なさった中島智章先生から会

衆のためのベンチや献金箱が置かれるようになった経緯を学ぶ機会がありました。宗教改革を経て、礼拝堂は絵や聖遺物が中心となっていた「モノ」の空間から、讃美歌を共に歌い、説教を聞き、より長い時間をかけて礼拝という「行為」をおこなうための空間へと変化していったのだと知ったことは、とても示唆的でした。

説教壇そのものは宗教改革期より前からありましたが、この時代に、らせん状の階段を持ち、彫刻によって装飾が施された、今となっては典型的な説教壇のデザインが形成されたのだと思います。説教壇は当初より内陣や

祭壇ではなく身廊の中央部脇などに設置されることが多かったのですが、今回説教壇が正面の中心でないことは、却って伝統に戻っている面もあると言えるかもしれません。御言葉の高さを表現するために、1段のみの基壇ですが、段付の説教壇のデザインとしました。また聖書の重要さを示す意味でも、聖書の置かれている書見台の傾斜が横からも伺えるデザインとしています。

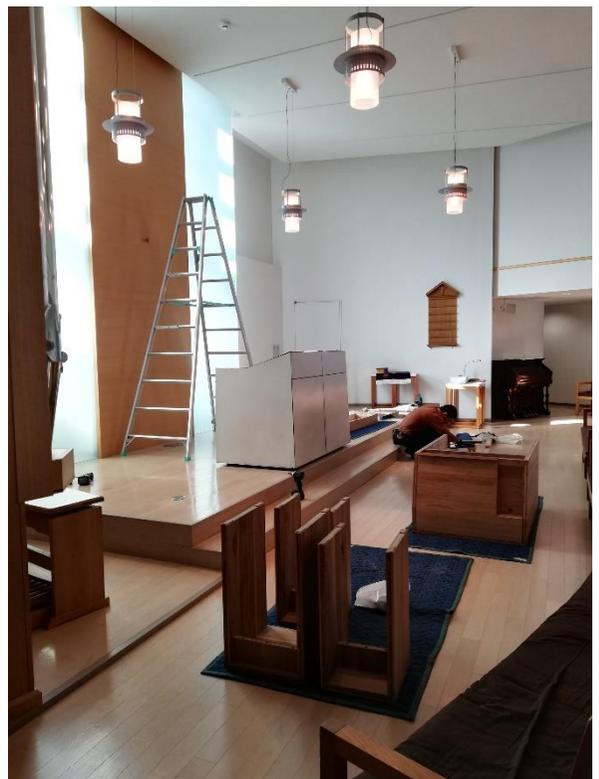
聖餐桌は、歴史的には棺の前で聖餐を行ったことから発展していったようです。箱型のデザインが多くみられますが、より食卓らしい形にしたいと提案させていただきました。直接の引用ではありませんが、中世のテーブルなども参考としながら、台形の土台の上に重厚な天板が載るデザインとしました。洗礼盤には、台形を逆にした形状を取り入れました。「斜め」の形のある礼拝堂に、これらの「斜め」もうまく調和してゆくことを期待しています。十字架は、上・右・左の手の長さが1:1:1となるように、また奥行きがより立体的になるようにしましたが、色味やサイズは同じにして、今までの見慣れた十字架の要素を引き継いでいます。花台や献金台はシンプルなコの字型の什器としています。なお同じ日本基督教団に属する身近な教会としては、講壇配置・形状に関しては千代田区の富士見町教会を、形状やつくりに関しては静岡県駿府教会の講壇を参考にしています。

先日の礼拝後の講壇什器デザインに関する説明会にご参加なさった方々にはお話した内容ですが、素材はすべてナラ無垢材を使い、同じ木材でできているパイプオルガンと調和するようにしています。家具製作会社であるイノウエインダストリーズさんからのご提案で、温度湿度によって伸縮しやすい無垢材の欠点を補える材料として、異なる方向の木目を重ね合わせてできた無垢の集成材の一種を使っているのが特徴です。実物の什器が到着した日、ナラ無垢材の豊かな表情と、しっかりとした重みがあってこそ、講壇什器にふさ

わしい質感と量感を持ちうるのだと改めて実感しました。

特注家具や什器の設計は経験がありましたが、教会のための講壇什器、そしてこれほど無垢材をふんだんに使ったものの設計は初めてで、力不足な部分もありましたが、渡邊先生のアドバイス、そして今回製作を依頼しました、教会の什器製作のご経験が豊富なイノウエインダストリーズさんに大いに助けをいただき、新しい講壇什器でクリスマスの礼拝をささげることが叶いまして、本当に感謝でした。このような得難い機会を与えてくださいました兄弟姉妹の皆様にも、お礼を申し上げたいと思います。

新しい説教壇・聖餐桌・洗礼盤がパイプオルガンとともにこの柿ノ木坂の教会堂になじみ、より礼拝にふさわしい空間となって、ますます励んで礼拝をささげられますように。また伝道委員でもある身としましては特に、今回新たに据えられた洗礼盤が使われるときがはやく来ますように、祈っております。



「講壇のレイアウトに関する過去の経緯など」

井澤 浩一

講壇什器が新しくなりました。そのレイアウトを含めた過去の経緯を振り返ってみます。

1968年6月竣工の鉄骨壁構造の現在の基礎になる会堂は、予算の厳しさから保守が充分でなかったこともあり、雨漏り等がひどくなり、併せて2001年に実施した建物の耐震診断の結果、外壁が崩れる恐れが指摘されました。

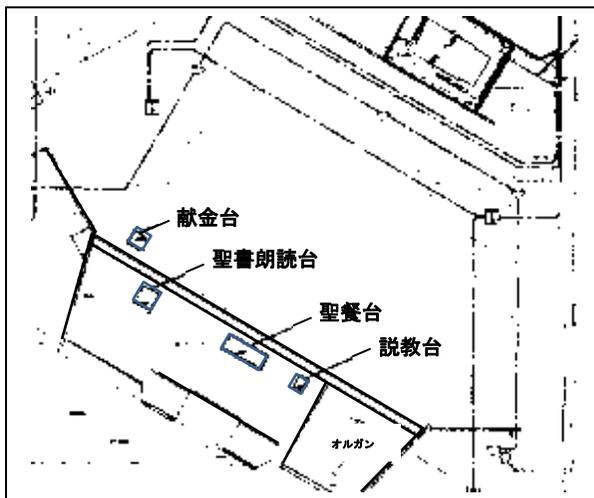
同年4月の教会総会でこの結果を基に、会堂整備委員会は建物整備の考え方を説明し、アンケートも行うなど準備を重ね、2003年の教会総会で改築が賛成多数で承認されました。

(株)松田平田設計に設計を発注し、2003年7月6日に臨時教会総会を開催。改築の基本計画と資金計画、改築中の礼拝や幼稚園の場所(礼拝は玉川聖学院礼拝堂借用)、幼稚園は廃園になった立源寺幼稚園園舎借用)、改築委員会の設置案などについて報告、賛成多数で承認されました。教会建物改築委員会の長は若林之矩兄、傘下に、改築期間の牧師住居、教会什器等の保管場所などを検討する総務委員会(委員長:渡邊信大兄)、設計事務所、建築会社との調整・打合せを担当する建築委員会(委員長:井澤)、資金委員会(委員長:松江繁樹兄)が決まりました。

さて、勝田牧師の講壇レイアウトに関するご意向も入れた、松田平田設計から提案された設計原案に講壇什器の配置を記した図面(右上)があります。建築委員会もその方向で進めました。設計図では会衆席から見て右側に説教卓、中央に聖餐桌、左側に聖書朗読台がありました。残念ながら、価格見積もりだけで、資金の問題で什器まで新しくする余裕はなく、先送り。

柿ノ木坂教会はご存知の通り、渋谷の美竹教会の伝道所として1936年に当時の衾町、現在の八雲一丁目の常園寺参道脇の民家で発足しました。

その美竹教会の講壇のレイアウトも、上の図面に近いものです。また、オルガンの検討でお邪魔した吉祥寺教会(右写真)や、千歳船橋教会なども中央に聖餐桌、左側に一段高い説教卓がある構成です。美竹教会もホームページの写真でご覧いただ



けます。私は、これはエキュメニカルな動きと教会の歴史的経緯を尊重した結果ではないかとも考えています。ただ、私は神学を学んだ者でもなく単に講壇の配置に興味をもった一信徒ですから、間違った見方をしていないかと、危惧しますが、そのような立場から眺めてみます。

ドイツのルターに続いて、スイスのジュネーヴで宗教改革を行ったフランス人ジャン・カルヴァン、そしてその教会は、カルヴァンの弟子たちによってスコットランド、オランダなどと広がっていきます。

カルヴァンはスイスのジュネーヴに「サン・ピエール教会」を、その弟子・ノックスはスコットランドのエディンバラに「ジャイル教会」を起こします。

そして、他の弟子たちによって、オランダ改革派教会、更にその人たちがアメリカに渡って、当時のアメリカ合衆国長老教会(PCUSA)や、現在アメリカ・オランダ改革派教会(RCA)と呼ば

れる団体などに広がっていきます。PCUSAは明治学院の初代総理(学長)にもなったヘブバーン(いわゆるヘボン)を日本に派遣しました。同時期にRCAから派遣されたブラウンやフルベッキがいます。彼らの協力により、1871年(明治4年)に横浜で(旧)日



本基督教会の基となる日本基督公会を設立しています。山下公園の近くにある、現在の横浜海岸教会がその最初の教会です。

ただルーツから言うと、カルヴァンの流れである、日本基督教会の横浜海岸教会や、大久保の柏木教会、植村正久牧師のいた大森教会、同様に古い歴史を持つ日本基督教団の横浜指路教会などは、中央に説教卓があります。

これは、儀式的要素を排し、聖書のみ、との考えで神の言葉が語られる説教卓が講壇の中心にある様式となったのかもしれない。ルターの場合よりも、厳格に聖書で命じられているもののみを残し、神の言葉を強調することに中心をおいたからではないでしょうか。

しかし、ジュネーヴのサン・ピエール教会も、エディンバラのジャイル教会も、説教壇が左手の高いところにあります。(ただし、ジャイル教会の段はたった3段ほどですが)

これも、考え方は同じで、聖書を通して語られる神の言葉は、高いところから語られるという考えではないでしょうか。

そしてこれは、スイスで一番多い改革派教会(Evangelische Reformierten Kirchen)の仕器

配列に引き継がれているのではないのでしょうか。

私はスイスの山歩きの途中、主日にはその地の教会の礼拝に出席していますが、後のページに載せた写真をご覧になれば、お分かりいただけると思います。ドイツ語圏、フランス語圏を通し、ほとんどすべての教会が、説教壇は左、または右側の高い位置でした。

ドイツはどうでしょうか。当然、ルター派が主力で、プロテスタント教会の礼拝にはデュッセルドルフや、その近郊のノイス、少し南のケルン、ボン、ずっと南のミュンヘンなど、6か所ぐらいしか出席していませんが、中央やや左寄りに、少し高い説教卓があるところが多かったと記憶しています。

日本でも、新大久保にある日本福音ルーテル東京教会も、やや左側に一段高く上がった説教卓があります。

そして聖公会ですが、立教大学諸聖徒礼拝堂、洗足教会のほぼ環七を挟んだ向かいにある三一教会など、すべて、中央に聖餐桌、左寄りの一段高いところに説教卓、右寄りに聖書朗読台があります。

以下に、スイス各地の教会の写真を紹介します。(撮影：井澤)



サン・ピエール教会（会衆席側から）

スイス、ジュネーヴのカルヴァンの教会中央の聖餐台左手前に、階段を昇っていく説教壇がある。その左手に、カルヴァンが座ったと言う椅子が展示してある。
*長老席が右前方、内陣手前にある。
オルガンは後方入り口の上にある。



ジャイル教会（内陣側から）

スコットランド、エディンバラのノックスの教会中央の聖餐台の左に、3段だけ上がる説教台とかご状の囲い。左前方に見えるのが会衆席。
*長老席が内陣の聖餐桌右後方にある。
(教会報 192号 p.3 参照)
オルガンは内陣の手前右手の壁面にある。

*** スイスの教会 ***

チューリッヒから南西へ国鉄で約1時間の都市

ルツェルン教会

左に高い説教壇、
中央に聖餐桌、
右に聖書朗読台がある。

右の写真の白い枠内が
左の写真の説教壇

パイプオルガンは入り口（後方）の上。
(なお献金台はない。献金は教会税として
払う仕組みなので、席上献金はなく、
志しのある人のみ、入り口付近の籠に
入れて帰る教会がほとんど。)



スイスのほぼ中央、ハスリ谷にある村 **マイリンゲン教会**

中央に聖餐台 柱など木の丸太できている

11時のオランダ語の礼拝は左端の高い説教壇で／10時のドイツ語の礼拝は右の説教卓で、



スイス北東部の小さな美しい町 **アッペンツェル教会**

左に朗読台
中央に聖餐台
右端に階段を
4段上がる
説教壇



スイスのほぼ中央、
ブリエンツ湖畔の丘にある
ブリエンツ教会

左端に数段上がる説教壇、
中央に聖餐台と、その右に
聖書朗読台がある。



ユングフラウなどのある観光地への入り口の町、インター
ラーケン東駅と西駅の間にあるヘーエマッテ公園、
その公園の東端、昔の城郭の中にある教会。

インターラーケン城教会 (Schlosskirche Interlaken)

中央に聖餐桌、右側に天蓋のある高い説教壇がある。→



観光地、グリンデルワルトの北のはずれにある教会。

グリンデルワルト村教会 (Dorfkirche)



←

週日の夜で、音楽会に使っていたため
講壇什器の位置は、中央の聖餐桌以外
動かしてあったので不明。

(他に5か所ほどフランス語圏を含む教会の写真もあるが、ほぼ類似なので省略)



私は、昨年からのこのアプリを礼拝でも使っていますが、非常に使い勝手がよいので皆さんに紹介いたします。

このアプリは、ダウンロード数が3億を超え、1,204言語に対応していて、1,711訳の聖書がすべて無料で利用できます。開発・運営元は米国のメガチャーチ「ライフ・チャーチ」で、2008年にiPhoneアプリとして開発され、現在は、Android、Windowsでも利用できます。カトリックとプロテスタントが協力して18年かけて翻訳した「新共同訳」も利用できます。

このアプリの特徴：

- ① PC、スマホ、タブレットで使える。
- ② 章と節を入力すると、瞬時に聖書箇所が出て来る。
- ③ 文字の大きさを自由に変えられる。

- ④ 音読してくれる。
- ⑤ 毎日、聖句を送って来る。その聖句の前後を簡単に出して読める。
- ⑥ 聖句に色や印をつけ、聖書にメモを書き込むこともできる。
- ⑦ 「比較」を押すと、その聖句を多言語で比較できる。
- ⑧ スマホに入れておけば、いつでも何処でも聖書に触れられる。

このアプリのダウンロードは、Androidの場合は「Playストア」、iPhoneの場合は「Apple Store」で「聖書 無料」を検索し、「聖書 YouVersion」を選択します。PCの場合は、下記参照にアクセスし「Windows 8」をクリックします。なお、それぞれのIDとパスワードが求められますが、PCの場合はMicrosoft IDとパスワードが求められます。

参照：<https://www.bible.com/ja/app>

☆☆☆ 教会の行事 ☆☆☆

◇今まであったこと

- 12月 4日 (水) 13:30～ 新生会・いずみ会 アドベントの集い
- 12月 6日 (金) 10:00～ ベテル幼稚園 保護者のためのクリスマス礼拝
- 12月 17日 (火) 10:00～ ベテル幼稚園クリスマス礼拝
- 12月 22日 (日) 10:30～ クリスマス主日礼拝
- 12:30～ クリスマス愛餐会
- 15:30～ 教会学校 クリスマス礼拝、(ページェント)

(写真上) ページェントのリハーサル風景

- 12月 24日 (火) 19:00～ 聖夜礼拝
- (写真下) 第2部でのパイプオルガンとオーボエの共演

◇これからの予定

- 2月 26日 (水) 灰の水曜日 受難節(レント)に入る
(～4月11日)
- 4月 5日 (日) 棕櫚の主日
- 4月 5日 (日) ～4月11日 (土) 受難週
- 4月 9日 (木) 洗足木曜日
- 4月 10日 (金) 受難日
- 4月 12日 (日) 復活日(イースター)
- 5月 31日 (日) 聖霊降臨日(ペンテコステ)
- 6月は伝道月間です。



今月のメッセージ

——ホームページページ巻頭言——

ホームページには多くの情報が掲載されています。

この教会報はカラー版でご覧になれます。

<http://kakinokizaka-church.com>

あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。

主に逆らう者の天幕で長らえるよりはわたしの神の家の門口に立っているのを選びます。

(新共同訳聖書・詩編第 84 編 11 節)

昨年、夏の終わりに、礼拝堂にパイプオルガン新設が成りました。9月15日の主日礼拝にて奉献の祈りをささげ礼拝での使用を開始しました。パイプオルガンの新設に伴い、講壇を整備する計画を実施に移し、こちらは12月22日のクリスマス礼拝から使用を開始しました。講壇整備では、説教卓、聖餐桌の更新、洗礼盤の新設を行いました。

柿ノ木坂教会の現在の礼拝堂は1968年に献堂された建物です。この建物の鉄骨構造部分だけを残して2004年に外内装の全面的な耐震改修を行いました。この改修時に説教卓をはじめ講壇什器を更新、整備する計画もあったのですが、叶いませんでした。献堂以来使い続けてきた説教卓、聖餐桌を使い続けることとしましたが、約半世紀の使用の中で痛みも目立つようになり15年越しの整備実施となった次第です。

礼拝堂の一連の整備を通して一枚の設計図というのを考えてきました。パイプオルガンを新設した場所は、会堂改修の際にオルガン重量に耐えられるように強度設計を施し実施しました。説教卓、聖餐桌の設置変更は、改修時の図

面に既にデザインされていたものをマスタープランとしました。その当時には実施できなかったけれども、何年も先のことを展望し起こされた凶面、設計だったと改めて思われました。

教会建築は、聖書と信仰告白というひとつの設計図によって霊的に建て上げられてゆきます。時代によって、建てられる地方によって、外装や様子は違っていても、どの時代の教会も、どこに建つ教会も、ひとつの一貫した霊的な建設が続けられています。御言葉の説教と、信者が生み出される洗礼と、信者が霊において養われる聖餐と、そして神の御名を呼び祈られる祈りと賛美、これらが教会のささげる礼拝の変わることはない大切な内容です。

講壇整備に15年。パイプオルガン設置には30年前にはじめて新設のための初穂となる指定献金が献げられ、それ以来の献げ物によって礼拝のための新しい楽器を奉獻することができました。どちらもが長い年月にわたる祈りと献身によって実りを得た事業でした。確かにそれは、聖書が記すところの気の遠くなるような神の民の歴史から考えると、そのほんの一瞬のことであるかもしれません。けれども、限られた時間、年月をゆるされて生かされている者であることをあらたに覚えて、礼拝堂に設置された新しい什器、楽器をして、この地で礼拝を献げ、多くの方たちに福音を届けてゆく伝道への志を新たにしています。

(牧師 渡邊義彦)

——編集後記——

- パイプオルガンに続いて、懸案だった講壇の什器が整備されました。クリスマスはこのパイプオルガンと新しい什器で、御子のご降誕を祝う喜びを味わうことができました。今号は、その意味を考えていきたいとの思いで、企画いたしました。
- 冬本番、ということは、間もなく受難節に入ります。主の、十字架による救いを覚えつつ過ごし、喜びの復活日を迎える備えをしたいものです。
- 聖書がいつそう身近になる、アプリの紹介をいただきました。ぜひお読みください。
- 教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規